

令和4年度 南アルプス市立若草南小学校 学校関係者評価書

令和4年9月6日（火）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和4年9月6日（火）午後5時30分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

神山 栄和（藤田区自治会長，学校評議員）

深沢 和治（浅原区自治会長，学校評議員）

深澤 美香（主任児童委員，学校評議員）

松田 敦嗣（PTA 会長，学校評議員）

八巻 憂子（PTA 副会長，学校評議員）

浅利 進（校長）

志村 泉（教頭）

飯久保幸一（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ：学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

また、全校児童のアンケートの集計結果は、全10の質問項目中、肯定的評価が90%以上の項目が6つ、80%以上の項目が3つであり、全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。引き続き、一人ひとりの児童の自己肯定感を大切にした指導を充実させ、主体的に学ぶ児童の育成の取り組みに期待したい。

II 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

学校生活について

○児童アンケート結果が概ね肯定的であり、よい結果だと思う。先生方の努力の賜物である。コ

コロナ禍でいろいろな制約も多く、大変だと思うが、これからも保護者・地域の協力を得ながら、取り組んでほしい。

- 困ったときに相談できることについては、対応策を考え、良き相談役になって欲しい。このことは2学期の校長の話でも取り上げ、学校だよりも紹介されている。また、アンケート結果から担任がすぐに児童の困り感に対応していると聞き、安心した。

学校では、SC・SSW、特別支援コーディネーター・関係機関と連携をとり、特別支援教育にも力を入れていると若草南小の評判を耳にする。特別な配慮が必要な児童も含め、指導は大変だと思うが、今後も保護者から見ても安心できる学校を目指して、組織的・継続的に取り組んでいただきたい。

- アンケート結果から、あいさつについて重点目標にして「あいさつ+一言」に取り組んでいる。これは元気倍増するあいさつである。外で遊んでいる子供をあまり見かけなくなったが、元気にあいさつしてくれる子供たちに癒される。地域・保護者を巻き込んであいさつの響く若草南小をつくってほしい。
- スマートフォンの所有率はもっと多いのではと思っていたが、意外と少なく安心した。しかし、ルールが決まっていない家庭もあり、心配である。学校としては、長期休業前に資料を配付し、保護者にも啓蒙している。また、SNS等でいじめや事件に巻き込まれないように、情報モラル教育も行っている。特に、高学年児童には毎年講師を招き、保護者と一緒にルール、マナーを学ぶ機会をつくっている。

学習について

- 学習面での児童のマイナス評価はあるが、児童のことを理解し、励ましながら自己肯定感を育て、指導を継続していただきたい。
- 南アルプス市は、教員不足の面は大丈夫か。メディアなどで教員の教科の掛け持ちなどしている映像が流れていたのが気になっている。
- 家庭学習と基本的生活習慣はおおに関係しているのではないかな。よりよい生活習慣が児童に定着する取り組みを指導して欲しい。

まとめ

- 学力向上はもちろんのこと、子供たちが「若南プライド」を意識できることも大切である。「くっそろえ」の集中月間をつくるなどもよいかと思う。
- 取り組む重点目標は上手にまとめられていると思う。ただ3項目の「自他の尊重、思いやりのある・・・」の中では、「相談できる人間関係づくり」「雰囲気づくり」「寄り添い」「関係づくりを一層進める」といった抽象的な表現であり、具体的な行動（対応策）が見えにくい。
学校としては、まずは、学級づくり＝学びの基盤づくりを意識している。教師と子どもの関係から、子どもと子どもをつなぐために、それぞれ発達段階に応じて取り組むため幅をもたせた表現になっていると理解していただき、子供が自己肯定感を高められるよう、「自信を持たせ、個性を伸ばす」ことに結び付く取組を行っていく。
- 児童アンケートに対して、職員の取組がよいと感じた。これからもアンケートを有効に活用して、児童の意見や実態に寄り添い、家庭・地域との連携をさらに強固にし、より良い教育を目指してほしい。